

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【公開番号】特開2006-243864(P2006-243864A)

【公開日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【年通号数】公開・登録公報2006-036

【出願番号】特願2005-55422(P2005-55422)

【国際特許分類】

G 06 F 9/50 (2006.01)

【F I】

G 06 F 9/46 4 6 5 C

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月3日(2008.3.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

タスクあるいはスレッドを処理する複数のプロセッサ部と、入力された優先度の高い処理の実行を制御する高優先度処理制御部とを備えるプロセッサであって、

前記高優先度処理制御部は、前記複数のプロセッサ部のうち、タスクあるいはスレッドの処理を実行していないプロセッサ部または最も優先度の低いタスクあるいはスレッドの処理を実行しているプロセッサ部に、入力された優先度の高い処理を実行させる非固定モードと、特定のプロセッサ部に、入力された優先度の高い処理を実行させる固定モードとを切り換えるモード切り換え部を備えることを特徴とするプロセッサ。

【請求項2】

前記複数のプロセッサ部での実行待ち状態にあるタスクあるいはスレッドを管理するタスク管理部を備え、

前記モード切り換え部は、実行待ち状態にあるタスクあるいはスレッドの数に応じて、前記非固定モードと固定モードとを切り換えることを特徴とする請求項1記載のプロセッサ。

【請求項3】

前記モード切り換え部は、アプリケーションプログラムによる設定に応じて、前記非固定モードと固定モードとを切り換えることを特徴とする請求項1記載のプロセッサ。

【請求項4】

前記高優先度処理制御部は、前記非固定モードにおいて、前記複数のプロセッサ部のうち、一部のプロセッサ部をタスクあるいはスレッドを処理する専用のプロセッサ部とし、残りのプロセッサ部を対象として、入力された優先度の高い処理を実行させることを特徴とする請求項1から3のいずれか1項に記載のプロセッサ。

【請求項5】

前記優先度の高い処理は、割り込み処理であることを特徴とする請求項1から4のいずれか1項に記載のプロセッサ。

【請求項6】

タスクあるいはスレッドを処理する複数のプロセッサ部を備えるプロセッサにおける情報処理方法であって、

前記複数のプロセッサ部のうち、タスクあるいはスレッドの処理を実行していないプロ

セッサ部または最も優先度の低いタスクあるいはスレッドの処理を実行しているプロセッサ部に、入力された優先度の高い処理を実行させる非固定モードと、特定のプロセッサ部に、入力された優先度の高い処理を実行させる固定モードとを切り換えることを特徴とする情報処理方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

このような構成により、優先度の高い処理の発生頻度とタスクの処理効率とを考慮して、より適切に優先度の高い処理を実行させることが可能となる。

前記優先度の高い処理は、割り込み処理であることを特徴としている。

このような構成により、マルチプロセッサにおける割り込み処理を動作条件に応じて効率的に処理することが可能となる。